

## 令和4年度第3回きのくにコミュニティスクール推進協議会 協議概要

- 1 日 時 令和4年5月27日（金）14：00～16：00
- 2 会 場 和歌山県日赤会館 3階 大会議室
- 3 テ ー マ 地域も学校も元気になるきのくにコミュニティスクールのあり方
- 4 協議の視点
  - (1) きのくにコミュニティスクールの実態と学校の意識に関する調査（案）について
  - (2) 学校運営協議会が持続可能なものにするために

### 5 委員による主な意見

- (1) きのくにコミュニティスクールの実態と学校の意識に関する調査（案）について
  - 調査の対象について
    - ・学校運営協議会の意見を集約し、回答してもらうことはどうか。
    - ・調査に回答するための協議会を開いてもらうと、学校運営協議会委員の意識が変わるのではないか。

#### ○調査の内容に関して

- ・「10年先にどのようなコミュニティ・スクールを目指していくのか」という視点をもって調査・分析をしなければならないと思う。
- ・市町村によってコミュニティ・スクールに対する考え方や取り組む方法が違うのは当然である。取組がそれぞれの地域に根付いてコミュニティ・スクールという教育的風土が県内に育つことが到達点であるならば、調査の分析結果を有効に活用してほしい。
- ・めざす子ども像を問うことで回答の中に共通性や地域の独自性が現れると思う。



### (2) 学校運営協議会が持続可能なものにするために

#### ○教育課程への位置づけに関して

- ・各学校の教育計画に「コミュニティ・スクール」あるいは「学校運営協議会」を明記するようにできないか。コミュニティ・スクールの目的や主な活動内容を教育計画の中に明記することは、全教職員がコミュニティ・スクールのことを理解できる方法の一つになるのではないか。

- ・総合的な学習の時間の全体計画を各学校で作成している。これは、めざす子ども像、関係教科と活動の位置づけ、地域学校協働活動との連携について書いたものである。きのくにコミュニティスクールを活用した取組を継続するためには、フォーマットにして残すことが大事だと思う。
- ・関係教科と活動の位置づけ、人とのつながりについて書いた「コミスクカレンダー」を作成し、新年度の学校運営協議会で提案する方法もある。

#### ○学校運営協議会の捉え方について

- ・コミュニティ・スクールの意味を知らない保護者がいる。協働というところまでまだ遠いと感じる。
- ・委員が代わると協議会の雰囲気が変わる。地域学校協働活動についての安易な取組の提案、地域のつながりの希薄化やコロナ禍に伴う活動規模の縮小が当然といった雰囲気で協議会が進むと、「コミュニティ・スクールの意義は何か、なぜ今コミュニティ・スクールなのか」と問いたくなってくる。実際に協議会で問いを投げかけてみたが誰も答えられなかった。持続可能な学校運営協議会にするためには、リーダーが旗を振って人を集め、地域や保護者に啓発していかなければならないと思う。



#### ○地域学校協働活動との関わりについて

- ・公民館活動、家庭教育支援から地域の人たちの交流を図ることができると感じている。
- ・学校長のビジョンのもと、熟議を重ねて意思決定を行い、能動的に活動できるようにし向けていかなければならないと考える。学校長の人を束ねていく経営力が重要であると思う。
- ・学校から地域へ、地域から学校へという双方向の働きかけがコミュニティ・スクールにとっては不可欠である。
- ・学校が核となるコミュニティ・スクールであるが、活動自体がコミュニティ・スクールにおける取組であるという理解が児童・生徒の間で進んでいないと感じる。県や企業とコラボレーションをした活動はコミュニティ・スクールの取組であった。取組をする理由を児童・生徒がメタ認知することが大事であり、メタ認知の力はどの学校種においても必要である。学校の取組の中で、コミュニティ・スクールにつながるものを整理する必要があると思う。
- ・子供たちのために何かできることはないか、教職員と地域が小さな熟議を重ねることで、コロナ禍であっても出来る新しい活動のアイデアが生まれてくる。
- ・コロナ禍における今、地域の子供のために何ができるのかというコミュニティ・スクールの意義そのものが問われていると思う。熟議を通してできることを体現する必要性を突きつけられているのではないだろうか。